

平成 28 年 2 月の解説（府県天気予報）

【2月の天候状況】

上旬は、旬のはじめは冬型の気圧配置で、北・東・西日本の日本海側では雪や雨の日が多かった一方、太平洋側では晴れた日が多くなりました。旬の中頃には日本付近を気圧の谷が通過し、太平洋側でも曇りの日がありました。その後、大陸から寒気が流れ込み、西日本と沖縄・奄美を中心に低温となりました。旬の終わりには大陸から高気圧が移動し、太平洋側だけでなく西日本日本海側や沖縄・奄美でも概ね晴れました。

中旬は、天気は数日の周期で変化しました。期間のはじめは大陸から高気圧が移動し、太平洋側だけではなく、東・西日本日本海側でも晴れた日がありました。13日から14日にかけては低気圧が発達しながら日本海から千島近海へ北東進し、全国的に荒れた天気となり、特に北日本では大荒れとなりました。また、低気圧に向かって暖かい空気が流れ込んだため、気温は全国的に平年を大幅に上回り、各地で春一番が吹きました。低気圧の通過後は一時的に冬型の気圧配置となり、強い寒気が流れ込んで、全国的に気温が低くなりました。その後は大陸から本州付近へ高気圧が移動し、東日本以西では概ね晴れた一方、北日本では気圧の谷の影響で曇りや雪または雨となりました。

下旬は、日本付近では冬型の気圧配置が長続きせず、短い周期で高気圧と低気圧が交互に通過しました。20日から21日にかけて低気圧が日本付近を発達しながら北東進し、全国的に天気が崩れました。24日から26日にかけて全国的に低温となり、北日本日本海側と沖縄・奄美では曇りや雨または雪となりました。29日は北海道付近で低気圧が発達したため、北・東日本を中心に大雪や暴風雪となったところがありました。

月平均気温は北・東日本で高くなりました。月降水量は全国的に多く、北日本日本海側ではかなり多くなりました。月間日照時間は、北日本日本海側で少なくなった一方、東日本日本海側と西日本で多くなりました。降雪の深さ月合計は、東日本太平洋側でかなり少なく、北・東日本日本海側と西日本で少なくなりました。月最深積雪は全国的に少ないところが多くなりました。

【2月の検証結果】

17時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値^(注)と同じ83%で、明後日予報は例年値より1ポイント高い81%でした。各地方の適中率では、明日予報については、九州北部地方で8ポイント低くなった他は概ね例年と同様でした。明後日予報では、九州北部地方で12ポイント低くなった一方、沖縄地方で8ポイント高くなり、他の地方は概ね例年と同様でした。

明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より0.3小さい1.3となり、全ての地方で例年値以下となり、特に関東甲信・中国・九州南部の各地方で例年値より0.5小さくなりました。最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より0.3小さい1.3となり、全ての地方で例年値以下となり、特に九州南部地方で0.6小さくなりました。

^(注)例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【4月の天気予報の利用にあたって】

4月は移動性高気圧に覆われた穏やかな日が多くなりますが、低気圧が発達しながら日本付近を通過して、雨や風が強まって荒れた天気になることもあります。また、多雪地域では低気圧の通過に伴って融雪が一層進みますので注意が必要です。災害をもたらすような荒天が予想される場合は、気象情報や警報・注意報を発表しますので、最新の情報を参照してください。